

令和7年度 大田区立蓮沼中学校 自己評価 報告書

令和8年3月6日

○ 本校の概要

生徒数383名、学級数通常学級12学級、特別支援学級4学級、教員数は29名である。「人権を尊重する生徒の育成」「自ら学ぶ生徒の育成」「心身ともに健全な生徒の育成」という教育目標を掲げ、一人一人の社会的・職業的自律に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、夢と希望をもって未来を拓く生徒の育成を目指している。4年前から学年担任制を実施し、学年教員全員で、一人一人の生徒をきめ細かく多角的観点に沿って指導することを目指している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組・今後の改善策(生徒回答287、保護者回答106)	学校関係者記入欄						
								評価	人数	コメント				
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来 し社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	「私は、友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とアンケートで回答した生徒	4: 90%以上	【取り組み】 *身近な疑問を導入に予想させ、考えを共有したり、調べたりする中で課題解決能力や情報活用能力の向上を図った。 *学年で情報モラルの授業を重ねたり、教科の授業ではタブレットを活用した課題や授業づくりをした。 *委員会活動において生徒に問いかけ、判断させる指導を行っている。 *技術・家庭科の授業の導入において、長期的な教育計画を立て、情報モラル教育・メディアリテラシー教育に関わる話題について考えさせる活動を実施した。 *既習事項を派生させ、新たな課題・問題について個人・話し合い活動を行なった。 *授業内で生徒自身が感じたことを調べさせ、他者に共有することで協働して学習する力をつけることができた。 *IBバカロレアの研修に参加した。 *数学の日常生活を絡めた教材、話題を扱う姿勢を常にもっていた。 *③デジタル教科書の活用。指導内容の参考資料の提示。 *発表の際に伝える情報をまとめさせる。 *授業において自分の活動を振り返る時間と、次に向けての考えをまとめさせた。 *公的機関のホームページをもとに、調べ学習(レポート作成)を行った。 *自分たちで必要な情報を調べ、考えを深めていく学習を行った。 *数学の証明方法について情報活用をした。公的機関のホームページをもとに、調べ学習(レポート作成)を行った。 【改善策】 *改善策として協働学習を組織的に継続して行うことが挙げられる。 *生徒に問いかけ、判断させる指導を今後も継続して取り組む。 *①を取り入れるだけでなく、より効果が高まるように授業を組み立てる。 *体験活動の内容をさらに充実させ、実社会で求められる力の育成につなげていけるとよい。 *トランプや模型・アプリを使った体験活動を行っていきたい。 *英語を通して社会の様々な問題を知り、主体的に考える授業の題材を準備し、取り組ませる。 *内容の質を上げられるように、もうひと段階レベルアップした考えを持たせたい。 *今後は、個人で調べた内容をグループで話し合わせるなど、情報の活用にも重きを置いていききたい。	A	4	*協働学習を組織的に継続し推進していることが伺えます。 *職場体験にいらした生徒さんは明るくまじめでしたので、好感がもてました。 *おおむね高評価したい。想像力、情報の活用力の育成の図り方。 *身近な問題、疑問等を自身で考え、あるいは共有することは大変有用であると考えます。生徒へ問いかけ、自ら判断させる指導も評価したい。 *STEAM教育の内容と、成果指標、改善策とが合致していないのでは?という感想をもちました。 *取り組みはできているようなので、改善策にも上げられています が体験実証してみてください。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	3: 80%以上		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										2: 70%以上	
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											C
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	2: 70%以上	D		0						
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	1: 70%未満									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る人 材国 を際 育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やす機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	「自分たちの未来のために地球環境保全やSDGs等に関心をもち、その実現に向けて何かしたいと思う」とアンケートで回答した生徒	4: 70%以上	【取り組み】 *教科として、古典を学ぶ意義や楽しさを伝えられる授業づくりをした。 *エコキャップ活動を通じて環境問題や開発途上国支援について考える機会としている。 *SDGsについて総合的な学習の時間を活用し、クイズ形式で知識を深めた。学んだことをもとに、今すぐにはできないことと大人になったらできそうなことを考えた。 *道徳の授業の中で、解答が複数ある質問を多く取り入れ、話し合い活動をした。 *修学旅行の事前学習では学年の目標であるSDGsについて調べることで当日は様々な施設に興味をもちながら学習することができた。 *グローバルな問題について興味関心をもって取り組める題材を準備する。 *平和学習 *道徳の授業で国際貢献や異文化理解をテーマに授業を行い、生徒に理解を深めることができた。 *③安全な水について考えた。 *生徒が発信する機会を増やし、コミュニケーションの機会を図る。 *修学旅行を通じ、②に取り組んだ。 *保健の授業を含め様々な場面でSDGsを絡めた授業を行った。 *平和学習を通して、過去の日本について調べ文化に触れた。修学旅行を通じ、②に取り組んだ。 【改善策】 *今後は、個人の日常の取り組みまでもっと意識させていききたい。 *社会課題を生徒に自分事として捉えさせる機会のさらなる充実を図りたい。	A	5	*SDGsに関心をもつことは、世界とのつながりを深めるには必要なことです。まち、各国の歴史認識や異文化の理解など大切なことだと思う。 *国際感覚の育成、異文化理解の大切さ。 *エコキャップ運動を継続している。 *外国語教育へ注力していることに今後も期待しています。 *大田区でもSDGsを推進しているので、個人として家族として学校として地域として何ができるのか、を考え実行する。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								3	2: 50%以上		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										C	0
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	1: 50%未満									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3										
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。						D		0			

<p>た一個 め人別 の目標 基礎と が個性 力を能 力を発 揮する</p>	<p>①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。</p>	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	<p>「自分にはよいところがあると思う」と回答した生徒</p>	4: 80%以上	<p>【取り組み】 *給食の献立を活用し、食の授業を行った。 *保健や体育の授業を通して、それぞれの時期にあった体の発達を踏まえた生活習慣についてなどの指導を行った。 *小中の生活指導の方針を確認し、お互いの学校で今後の指導の参考にした。 *小学校や特別支援学校の学習指導要領や学習指導案から中学校の特別支援学級の教科目標に沿ったものを参考に授業計画、実施、見直しを繰り返し行い、導入・展開・まとめの流れを作り上げた。 *主に道徳の授業を通して、生徒の豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 *習熟度別の授業展開、小中一貫での生徒会(委員会)の動きの連携。 *小学校の先生方と話し合う機会が多くあり、小学校としての課題、中学校としての課題を共有しあい、解決に向けて働きかけることができた。 *年に3回英検を校内で実施し、確かな学力の定着を図った。 *生徒にあった課題・役割(先生役など)を与え、机間指導に割ける時間を工夫した。学習する内容にあった既習事項の確認を行なっている。 *キャリアパスポートを有効に使うことができなかった。また、高校で使用されている状況をあまり知らないため、高校でのキャリアパスポートの使用例を知りたい。 *小学校との意見交換の場や授業見学を行うことができた。 *個別指導計画や担任会での小学校の先生方との情報共有、小中一貫教育等を通し、生徒の情報共有を十分に行い、必要に応じて外部機関との連携を図り、適切な支援を実践できた。 *習熟度別にあわせた授業をした。 *年2回の生活習慣チェック。 *少人数クラスでの指導内容の工夫。 【改善策】 *改善策として、個別最適な学びを目指すために学習計画以外に生徒への支援計画を具体的に立てて授業を行う必要がある。 *小中の接続をこれからの子供達の健康の土台を作る授業になるよう、授業研鑽を積みたい。 *どのように実現していくか、考え、改善し続ける。</p>	A	5	<p>*豊かな情操や道徳心の育成、体育や保健体育の学習機会を通じた生活習慣の確立に効果を示しています。 *合唱コンクール、作品発表会、書初め作品などを拝見して、小学生の時から著しい成長を感じました。 *小学校との連携を深め、解決に向けて働きかけることは、個性を伸ばし、語学教育にも必要です。 *中学校のキャリアパスポートを高校でも使用できるか、と言われると少々難しいと言わざるを得ない。中学校では、義務教育段階の将来の夢と、食い違う現実を突きつけられることもない。家庭環境の影響は深刻である。 *自分は苦手な教科を後回しにしていました。苦手な教科を好きにできるきっかけがあれば、少しずつでも興味が出てくると思います。</p>		
		3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上						
		2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			3					B	3
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。									
	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。										
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	2: 60%以上		C		0				
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	3	1: 60%未満		D		0				
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。										
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。										
	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	3	1: 60%未満		D		0				
	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。										
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。										
2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											

学 校 別 目 標 ・ 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	「先生は、わかりやすく工夫した授業と、適切な評価を行っている」とアンケートで回答した生徒	4: 80% 以上	【取り組み】 *地域防災訓練の時期に、避難所運営のアイデアをまとめるグループ活動を行った。 *授業において、教員が知識や技能を一方向的に教え込むのではなく、基本の知識や技能を習得後は、生徒が必要と思う技能や戦略を話し合いの中で見つけていく授業を行っている。 *数学における言語は、数式であり、記号であり、表やグラフを伝達方法のツールである。このツールを有効に使い相手に伝える視点を生徒には指導している。 *特別支援学級の授業にて、タブレット端末を持ってきている生徒はプリントを使わず、オクリンクプラスのみで授業を完結させるようにしたこと。個別最適な学びのために、ふりかえりを工夫し、タイピングや直筆、選択肢、ふりかえりワードを枠内に移動させる等、生徒それぞれの実態に合ったものを用意し、生徒が自ら選べるようにしたこと。書字を苦手とする生徒や無記入で終わっていた生徒が自分を振り返ることができるようになった。 *授業内での協働学習(学び合い)の実施。 *子どもと向き合う時間をとるのが難しい。 *言語活動を活発化できるよう、「伝える」を重点的に行える課題提示やグループ活動を行っている。 *道徳研修を通して、固まってしまっていた指導スタイルを改めて見直し、より良い道徳教育に向けて日々勉強する意識が高まった。 *作品制作だけでなく、制作意図などもワークシートに記入させている。 *おおむね毎授業での話し合い活動や、学びあい教えあいを通して協働的な学びの一環としている。 *自分はどう思っているのかということが引き出せる質問を考え、発問をしている。 *グループ活動など対話的な学びは取り入れられていたが、指示をする場面が増えてしまい生徒の主体性を最大限に引き出せなかった。 *グループで活動させた。 *専門性を生かし、掲示物作成や保健指導を行っている。 *ペアワークの活用。 *①少人数授業の実施。	A	5	*大変努力されていると思います。 *生徒一人ひとりへの対応、対話、先生方の努力の大切さ、大変ですね。 *生徒一人ひとりの可能性を引き出すこと、教職員の専門性を生かした活動を評価します。 *いろいろ考えているようですが、体験後にしっかり反省をすれば改善になると思います。								
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								3	3: 70% 以上	B	3				
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。												3	2: 60% 以上	C	0
		④「主体的、対話的で深い学び」に取り組み、言語活動を充実させるために授業を工夫する。	4:全教員で行った 3:80%以上100%未満が「おおむね行っている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね行っている」と回答した。 1:「おおむね行っている」と回答した教員が60%未満であった。															
た 自 個 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い 支 援 い し き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	先生は、生徒の意見や要望に耳を傾け、悩みなどの相談にのってくれる」とアンケートで回答した生徒	4: 80% 以上	【取り組み】 *教員間での情報共有を定期的開催し、事の大小に関わらず共有・対策を話し合い、連携することで生徒がどの教員にでも相談できる環境作りをした。どの教員が誰にどのように指導するなど具体的に担当を決めることで、生徒や保護者の困り感の解消をした。 *スクールカウンセラーの先生からよく話しかけていただき、生徒を気にかけてくださった。情報を共有し、生徒への働きかけを共に考えることができた。 *不登校生徒のための別室を大きな教室に変更した。安心して登校している様子がうかがえる。 *特別の支援を要する生徒だけでなくその他の子どもたちにも、同じくらい手厚く、各生徒に必要なサポートができるようになりたい。 *生徒の変化に気づき次第、学年教員・スクールカウンセラーに相談を欠かさず行なっている。 *グループワークを多く取り入れた。 *特別支援教室巡回委員と連携をとった。 *いじめアンケートを踏まえた聞き取り。 *SCと気軽に相談できる環境づくり。 *休み時間の巡回を徹底的に1年間行い、いじめ未然防止には、幾度となく貢献できたと自負しています。 *③スクールカウンセラーとの情報交換・情報共有。 *学年内での生徒情報の細かい共有。 *機関や教員間との連携は密にとれた。 *SC(スクールカウンセラー)と連携を図り、ケース会議を実施した。 *学習支援員との連携。 *いじめ防止については、学年・学校単位での情報共有を行い、学年関係なく指導を行うことを意識的に行っている。 *ロータスルームにて、教室に入れられない生徒との関わりを大切にしている。	A	6	*不登校生徒のための対応と、それ以外の生徒に対しての対応にも力を入れていることを評価します。 *特別な配慮(見守り等)の必要な生徒さんに対して、学校は手厚くサポートしていると感じます。 *英検のシステムが分からないので、正当な評価が難しい。 *いじめ、不登校の発生、大変です。きめ細かく対話等、スクールソーシャルワーカーとの連携等、大変ですね。 *いじめはどんな社会でも絶えず発生します。きめ細かいカウンセリングを、その時代の常識を踏まえて、指導するしかないと思います。								
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。								3	3: 70% 以上	B	2				
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												3	2: 50% 以上	C	0
		④不登校(傾向)生徒減少につながる学習支援や安心できる居場所作りを推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															

安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境なを つ習空 くり間 と安全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	「避難訓練や安全指導日などを通して、危機や災害に対して、周囲の人と話し合ったり、備えたりしている」とアンケートで回答した生徒	4: 70%以上	【取り組み】 *失敗を良しとして学びとする雰囲気形成し、失敗しても大丈夫だと安心して様々なことに挑戦し、その中で生徒自身が成長できるようにした。安心して学校生活を送ることができることを繰り返し伝えた。 *担当の先生に毎月の避難訓練を様々な状況設定で実施して頂いていたため、生徒も教員もそれぞれの状況での行動を考えることができた。 *校内図を掲示したり、教室環境やトイレ等の環境整備をした。女子トイレにナブキンを設置、困ったときに取れるようにした。 *避難訓練では、もしものときに私が教員としてどう動くか、授業外の時間が一番判断が難しいと感じた。 *施設については教職員が行う日常点検の結果を校内で共有し、修繕等必要な対応を速やかに行っている。 *施設については教職員が行う日常点検の結果を校内で共有し、修繕等必要な対応を速やかに行っている。 *生徒が安心安全に授業が受けられるよう、一番初めに授業を受けるためのルールを生徒と共有した。 *避難訓練では改善を次の要項に組み込み、様々な想定で計画を立てた。 *定期的な避難訓練を、近隣諸機関とも協力しながら行っている。 *避難訓練に積極的に取り組んだ。 *②毎月の避難訓練の実施。 *避難訓練を真剣に実施させること。 *教員間で試行錯誤をしながら、より良い学校生活になるよう環境を整えている。 *避難所運営と関連付け、授業を実施した。 *美化委員と一緒に教室整理。 *保健体育科として常に怪我のない学習環境と指導を行っている。生徒自身に危険がどこに潜んでいるかを毎回問いかけるようにしている。 *不審者対応訓練では警察と連携を図りながら行うことができた。 【改善策】 *組織的に指導の方向性を話し合い、全教職員が力を合わせて生活指導を行っていく。 *避難訓練等、防災教育を充実させて、生徒の安心、安全を図るとともに防災意識を高めていきたい。	3: 60%以上	A 6 B 2 C 0 D 0	*地域の住民とともに、災害について理解を深めていきたいと思えます。 *避難所運営と関連付けて授業を実施したとのことで、地域住民としてはいざという時に大きな力になってくれるのではないかと希望がもてます。 *安心安全な学校生活づくり、学習環境の整備、防災活動教育に今後とも期待しています。 *防災訓練を各町会でも年一回は行っているの、参加して学校での避難訓練との違いを知ってほしい。	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 50%以上					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 50%未満					
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 50%未満					
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。					
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
学地学個 校域校別 をコミ標 くユニ ります テ地 域の連 携と協 働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	蓮沼中学校の教育は、家庭や地域住民の願い、期待に応えている」とアンケートで回答した保護者	4: 80%以上	【取り組み】 *積極的に登下校指導を行い、あいさつ運動に参加して下さる保護者や地域の方と共に生徒にあいさつを行い、生徒を見守った。下校時に地域住民の迷惑にならないように下校指導を行った。 *生徒と地域との繋がりがより深められるような連携の形を模索していきたい。 *毎朝保護者の方に登校の見守りをして頂いて、大変感謝しております。寒い中、夜間パトロールもありがとうございます。 *支援が必要な生徒の見守りを地域の方にお願いし、実施している。 *道徳の公開授業では、地域の方も参加して下さっていた。 *定期考査時の下校指導などを積極的に行った。 *朝の挨拶運動など、定期的に地域と連携しながら行っている。 *登校時の見守りをした。 *②登校時間の学区の巡回及び校門付近におけるあいさつ。 *三者面談で目標を共有すること。 *保護者、地域から安心していただける学校になるよう、地域の声を聞き連携を密にとっていききたい。 *地域防災訓練に参加した。 *地域の方に支援が必要な生徒の登下校サポートをお願いしている。 *朝の挨拶活動や地域防災訓練を通して地域の方との連携を図っている。 【改善策】 *改善策として、各学年で担任担当ではない日に登下校指導に参加することが挙げられる。 *生徒会担当として、地域の方やPTAの方と協力するような行事を企画していきたいと思えます。	3: 70%以上	A 1 B 7 C 0 D 0	*地域を含めた見学活動の実施と、登下校指導と挨拶運動を、継続して実施されることを期待しています。 *登下校時に元気に明るく、あるいは立ち止まって丁寧にあいさつをしてくれる生徒さんが多数います。 *個人情報の壁が問題だと思われます。 *地域と学校との共同関係と連携。 *地域と学校を今後もよりいっそう近づける努力をしていきたい。 *今年は女塚神社の祭りがあるので、各町会へ参加をしてほしい。 *学校に来校する大人への挨拶を、生徒からしてほしい。	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		2: 60%以上			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		1: 60%未満			
			②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。
		2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		2					3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。
				2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。							1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。